



第61回バイアスロン日本選手権大会

令和7年3月5日(水)から3月6日(木)の間、西岡バイアスロン競技場(北海道札幌市)で「第61回バイアスロン日本選手権大会」が実施された。バイアスロン班から14名が出場し、リレー種目(男子7.5Km×4名、女子6Km×4名)及び、スプリント種目(男子10Km・女子7.5Km)に参加した。

男子スプリント種目では立崎幹人(たちぎきみと)1等陸尉が2回射撃(計10発)を90%の安定した射撃で他を圧倒し、2位に約1.9秒の差を付け2連覇を果たした。立崎1尉は「結果を求めて自分にプレッシャーをかけ続けた中で優勝することができて率直に嬉しい。射撃では得意の伏射で1発外してしまい、その後のレース展開をどのように進めていくかを考えた。コース状況もタイム差が付きにくい中で、リスクを最低限に抑え丁寧に走るよう心掛けた。最後の立射では、敢えて自分にプレッシャーをかけながら『自分ならできる。』と自信を持って射撃をした。結果、全て射ち切ることができた事は自信にも繋がった。今シーズンの個人戦最後となったが、監督、コーチ、裏で支えてくれた冬季特別体育教育室に優勝という形で恩返しをすることもできた。」と語り、年齢を重ねてもなお第一戦で戦うための経験を重ね培った精神力の高さと冷静な分析力が伺えた。また、3位には小島清雅(おじまきよまさ)陸士長が入り「射撃のミスが目立ち目標としていた優勝に届かず悔しいレースだった。しかし、苦手としている立射でミスを最小限に抑えられたこと、やると決めた事をレースで実行できたことは良かった。これから成長していくために自分に何が必要で何をすべきかを問い続けていきたい。」とレースを振り返った。



陸士長
小島 清雅



2等陸曹
栃谷 和



2等陸曹
佐藤 葵

女子スプリント種目では1位から3位までを体育学校が独占した。竹内美琴(たけうちみこと)3等陸曹は射撃命中率80%に抑え、2位に1.2秒差の僅差で2連覇を果たした。竹内3曹は「前半から攻めていくことを決めてレースに挑んだ。射撃のミスはあったが走りカバーし最後は職員からの応援が力になって、最後まで全力を出し切る事ができた。コーチ、スタッフの方々に恩返しが出来て良かった。」と述べた。また、僅差での2位になった栃谷和(とちたになごみ)2等陸曹は「走力の面、射撃の命中率等総合的に今までで1番のバイアスロン競技ができた。僅差で優勝を逃し、悔しかったが次に繋がるレースだった。これからオフシーズンに入るが良い走りの良い射撃ができるように練習をしっかり積んでいきたい。」と述べ、バイアスロン競技歴1年目のルーキーは早くも頭角を現し、次なる目標へ目を向けていた。3位に入った佐藤葵(さとうあおい)2等陸曹は「個人戦においてシーズンラストレースだったので自分の中でいいレースが出来ればと思っていたが、コンディションを上手く合わせる事が出来ず、納得のいく内容ではなかった。今シーズンの悔しさをバネに上を目指し続けていきたい。」と語った。

本大会で、バイアスロン班の冬季シーズンは終了し、選手達の戦いは最大の目標である冬季五輪ミラノ・コルティナダンペッツォオへ向けカウントダウンが始まった。

総合成績 (入賞以上)

男子10Kmスプリント				女子7.5Kmスプリント			
氏名	階級	出身地	順位	氏名	階級	出身地	順位
立崎 幹人	1等陸尉	秋田県	🏆 優勝	竹内 美琴	3等陸曹	長野県	🏆 優勝
小島 清雅	陸士長	宮城県	🥉 3位	栃谷 和	2等陸曹	北海道	🥈 2位
				佐藤 葵	2等陸曹	秋田県	🥉 3位

